

も存在しています。

表4-10 主な行政別指導要綱の比較

項目	大阪府	神戸市	名古屋市	横浜市	東京都
擁壁の高さ制限	躯体 10m以下	原則 $H_o \leq 10m$	原則 $H_o \leq 5m$		$H_o \leq 10m$
地震時の計算	$H_o > 5m$	$H_o > 5m$	$H_o > 2m$	$H_o > 5m$	$H_o > 2m$
設計するケース	中地震時 $kh=0.2, kv=0$ 短期強度で 応力計算のみ		中地震時 $kh=0.2$ 短期強度で 応力計算のみ		中地震時 $kh=0.15 \sim 0.2$ 安全率 1.2 応力計算は 短期強度
地震時慣性力	大地震時 $kh=0.25, kv=0$ 安全率 1.0 応力計算は 設計基準強度	大地震時 $kh=0.25$ 安全率 1.0 応力計算は 未記載	大地震時 $kh=0.25$ 安全率 1.0 応力計算は 設計基準強度	大地震時 $kh=0.25$ 安全率 1.0 応力計算は 設計基準強度	参考程度？
合力作用位置	常時 $\leq B/6$ 中地震時 — 大地震時 $\leq B/2$	常時 $\leq B/6$ 中地震時 — 大地震時 $\leq B/2$	常時 $\leq B/6$ 中地震時 — 大地震時 $\leq B/2$	常時 $\leq B/6$ 中地震時 — 大地震時 $\leq B/2$	常時 $\leq B/6$ 中地震時 $\leq B/3$ 大地震時 —
表面載荷重	5kN/m ² 以上	10kN/m ² 以上	10kN/m ² 以上	実状による	10kN/m ² 以上
安定計算時の土圧 片持ばり式擁壁の場合	鉛直仮想背面	鉛直仮想背面	未記載 計算例として縦 壁実背面を紹介	鉛直仮想背面 地表面が水平の 場合は実背面可	未記載
粘着力 背面土 支持地盤	不可 可 B_e	原則不可	原則不可	できる限り 考慮しない	原則不可
突起の設置 突起のない状態の安全率	Δ 1.0 を確保	Δ 1.0 を確保	原則不可	\bigcirc 1.0 を確保	\bigcirc
コンクリートの短期 f_s	長期の2倍	長期の2倍	長期の2倍	長期の1.5倍	長期の2倍
コンクリートの短期 f_a	長期の1.5倍	長期の2倍	未記載	未記載	長期の2倍

※ H_o は擁壁の高さで、地表面から縦壁天端までの高さを表します。

※ その他、平成26年12月現在で各自治体には以下のような指針が存在しています。

- 大阪府では、表による指定土圧係数等を用いる場合においては、表面載荷重による土圧を求める時、想定される表面載荷重から5kN/mm² を差し引いて算定する。
- 愛知県名古屋市では、砂質土の地山のときは $\mu=0.45$ ($\phi=25^\circ$) の定数を使用可。
また、表面載荷重がない場合においても、照本オスコレ